令和７年度　　自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号	5208	学校名	中津高等学校（定時制）

社会的役割等 （ｽｸｰﾙ・ﾐｯｼｮﾝ）	生徒の多様性を尊重し、生徒の学びを保障する定時制高校として 確かな基礎学力を身に付け、誰一人取り残さないきめ細かな教育的支援を通して 自立した社会人の育成を目指す学校	
学校教育目標 （教育方針）	1　人間尊重の精神を基調として、生徒一人一人との心のふれあいを深め、信頼と愛情に基づく教育実践に努める。 2　勤労生徒としてのたくましい心身と強い責任感を高揚し、民主的社会の担い手として調和の取れた人間性豊かな生徒を育成する。	
３つの方針 （ｽｸｰﾙ・ﾎﾟﾘｼｰ）	どんな生徒を育てたいか 【ＧＰ】	・基礎学力と生きる力を身に付けることで、自信をもって自らの人生を切り拓くことのできる生徒 ・協同を通して他者との信頼関係を築きながら、一歩前に踏み出せる生徒 ・様々な参加機会を活用して自らの役割を理解し、家庭・地域・社会の担い手となれる生徒
	生徒をどう育てるか 【ＣＰ】	・一人ひとりの興味・関心能力・経験等に合わせ学びの楽しさを育む授業の工夫と基礎学力指導 ・少人数でアットホームな学校生活の中で自己効力感や信頼関係を育む学校文化の維持・発展 ・様々な学校行事や就労体験を通した自己有用感の育成
	どんな生徒を待っているか 【ＡＰ】	・自らの課題に対して４年間努力して前向きに取り組もうという意志のある生徒 ・仲間や教師など他者との信頼関係を築き、自らの可能性を広げたいという生徒 ・卒業後の進路を見据え学業と就労の両立を図り、学校行事に積極的に参加しようとする生徒
学校の抱える課題	・小学校や中学校からの不登校や登校渋りの生徒が多く、中学校までの基礎的な学力が十分に定着していない。 ・対人関係やグループ行動、集団が苦手で、他人とのコミュニケーションが不十分な生徒が多い。 ・将来の見通しが持てず、自分のキャリアデザインを描くことができない生徒が多い。 ・親子関係が良好でない家庭が多く、生徒と十分な信頼関係が構築されていないため、学校と家庭の連携が十分に機能しない。。	

教育指導の重点	領域・分野	の　具　体　的　な　重　点　目　標
	学校経営	・生徒の安心・安全を確保し、個々の発達段階に応じた成長を支援する。 ・「教職員の働き方プラン」を推進し、教職員の働き方改革や多忙化解消を推進していく。
	学習指導	・生徒個々の理解度を確認したうえで、「学び直し」の要素を取り入れ、個々の理解度に応じた学習支援を心掛け、基礎学力の定借を目指す。 ・生徒の興味・関心を高め、学習の定着を図るため、ＩＣＴ機器を効果的に活用する。
	生徒指導	・毎日の職員連絡会において生徒情報を共有し、職員の共通理解をもとに個々の生徒の指導・支援を行う。 ・教育相談や学校行事などでの協働を通して、自己理解や他者理解を促し、社会性を育成する。
	進路指導	・将来に見通しを持ち、早い段階から将来設計を家族を交えて検討する。 ・基本的な生活習慣を確立し、経済的自立に向けた一歩を踏み出す。

年　度　目　標

領域 分野	３つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な具体的取組・方策	県教育振興基本計画での位置付け	達成度の判断・判断基準あるいは評価指標
学校経営	・誰一人取り残さない学びの機会を確保するため、個々の状況に応じた丁寧な支援体制を工夫する。	施策Ⅳ-23	・管理職との面談 ・エントリーシート ・疲労度蓄積チェックリスト ・勤次郎による勤務状況の把握 ・生徒・保護者アンケート
	・生徒一人一人がかけがえのない存在であることを認識し、学校行事等を通して自己有用感を醸成する。	施策Ⅰ-1	
	・災害安全や交通安全、情報モラル等安全教育を重点的に実施し、生徒の安全確保に努める。	施策Ⅲ-19	
	・あらゆるハラスメントを未然に防止するため、職員会議や職員研修を通してコンプライアンス意識の向上に努める。	施策Ⅳ-28	
学習指導	・可能な限り、一人一人の学習ニーズに応じた学びを提供し、基礎学力を育成する。	施策Ⅳ-23	・生徒・保護者アンケート ・授業評価アンケート ・教員の自己評価アンケート
	・ICTを効果的に活用し、生徒の情報活用能力を向上させる。	施策Ⅱ-9	
	・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の効果的な活用を支援する。	施策Ⅱ-8	
	・一人一人の多様な教育的ニーズに対応できる多様な学びの場における適切な指導支援を行うための教員の資質向上を目指す。	施策Ⅳ-21	
生徒指導	・生命尊重の理念に基づき、外部機関から講師を招き、健康、安全、防災等の意識向上を図る。	施策Ⅲ-19	・生徒・保護者アンケート ・各講習会後の感想・アンケート ・心のアンケート ・いじめ調査
	・個人面談や教育相談等を通して、個々の理解に努め、共通理解のもとで必要な支援を行う。	施策Ⅰ-3	
	・学校と地域、家庭との連携を強化することで、生徒の安全・安心な居場所づくりの整備を図る。	施策Ⅰ-7	
	・外部講師を活用して主権者教育・消費者教育の充実を図り、社会生活能力を育成する。	施策Ⅱ-12	
進路指導	・インターンシップ等の職業体験活動やアルバイト等の就労への積極的な参加を促す。	施策Ⅱ-14	・生徒・保護者アンケート ・進路研修会の感想 ・インターンシップ参加者の感想
	・家庭を交えて進路に関する話し合いを重ねることで、家庭と連携した進路支援を行う。	施策Ⅰ-7	
	・地域の産業界と積極的な情報交換を行い、キャリア教育の充実を図る。	施策Ⅱ-13	
	・将来の自己の在り方や生き方について主体的に考え、一歩踏み出せるよう支援する。	施策Ⅳ-22	

年　度　末　評　価（自　己　評　価）

領域 分野	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A.B.C.D	成果と課題	総合 評価 A.B.C.D
学校経営	・生徒に関する情報交換を毎日の職員打ち合わせで行うことで、個々の生徒に対応した職員の支援体制を継続した。 ・生徒が主体的に参加できる学校行事を企画し、参加方法にも工夫を凝らした。 ・生徒の安心・安全を第一に考え、各種安全講話や防災教育を実施し、生徒への広報にも力を入れた。 ・職員間のより一層良好なコミュニケーションを構築するために職員研修や連絡会を通してハラスメントの未然防止やコンプライアンス意識の向上に努めた。	B	・学校評価アンケートの結果から生徒・保護者共に肯定的な意見が昨年を上回った。 ・昨年までと同様に学校行事を欠席する生徒は見られたが、意欲的かつ主体的に活動し、生き生きとした笑顔を見せる生徒が増えた。 ・外部講師を招いての安全講話や命を守る訓練等では昨年以上に真剣な姿勢や取り組みが感想文からも伺えた。 ・エントリーシートや疲労蓄積度チェックシートにおいては年間を通して概ね職員の心身状態が良好であったことが伺える。	B
学習指導	・生徒の学力を的確に把握し、個に応じた基礎学力の育成を図った。 ・どの教科もタブレットやプロジェクター等を有効に活用し、指導の工夫を図った。 ・各教科で「学び直し」の視点に立った教材開発を積極的に推進した。 ・毎日の連絡会での生徒情報を活用して、授業での適切な支援を適時行った。	B	・生徒間の学力差が大きいため、一人一人に必要な基礎学力の育成が十分に追いつけない。さらなる教材の工夫が必要である。 ・教員のICT活用という観点では、様々な工夫がなされているが、生徒自身のICT活用という観点では、総合的な探究の時間やホームルーム活動での限定的な活用にとどまっている。 ・「協同的な学び」についての実践をさらに増やしていく必要がある。 ・ユニバーサルデザインや通級指導を参考にした効果的な支援の研究・推進が必要である。	
生徒指導	・外部講師による性教育、薬物乱用防止などの講話や救命講習会を実施し、生命尊重についての生徒の意識向上を図った。 ・年３回の教育相談を通して生徒理解に努め、職員間で情報共有することで、共通認識を持って支援にあたった。 ・行事を通して家庭や地域と交流し、生徒の安心・安全な居場所づくりの基礎づくりを図った。 ・外部講師による消費者教育を実施し、生徒の社会生活能力育成を図った。	A	・講話や講習会を通して、健康や防災などの意識向上を図ることができたが、一度での定着は難しいため、継続する必要がある。 ・面談を通して得た情報を職員間で共有することで、共通認識を持って支援にあたることができた。 ・行事に参加する家庭が限られていた。また、連絡がつきづらい家庭にどのようにアプローチするか検討する必要がある。 ・講話の内容は理解していたようだが、自分ごとと捉えられるよう、定期的にこうした機会を設ける必要がある。	
進路指導	・インターンシップや企業見学についての情報提供を積極的におこない、参加希望者を募った。 ・卒業年次の保護者とは、保護者懇談時以外にも普段の電話連絡で生徒の進路について情報を共有し、進路支援につなげた。 ・中津川市が開催する情報交換会や企業見学などの機会に担当者から得た進路情報を生徒にかみ砕いて伝達した。 ・働くことについての基礎知識や企業の福利厚生などを生徒全体で情報共有し、キャリア教育につなげた。	A	・昨年度に比べ、インターンシップに参加する生徒が増えた。 ・卒業年次以外の家庭に対する情報提供がやや不十分であった。 ・定時制職員にも同様の内容を事前に伝えた事で、校内での指導に繋げて話しやすくなった。 ・まだ就労経験のないまま、一歩踏み出せないままの生徒がいる。根気よく対話の必要性がある。	

来年度に向けての改善方策等　　実施日：令和８年１月９日

・生徒が学校へ登校したい、学校で仲間に会いたい、先生や仲間と関わりたいと思えるような企画を工夫し、生徒の登校意欲を刺激し、喚起する。
・保護者との連携をより密にするために、普段の電話連絡や学校行事、保護者懇談等の機会を有効に活用し、生徒の共通理解、共通支援を図る。
・今年度作成した定時制版進路の手引きを活用し、入学時から系統的に見通しを立てながら自己の進路を研究し、一人前の社会人へと成長する力を育成する。
・生徒個々の基礎学力を着実に伸ばすため、ＩＣＴ機器を効果的に活用し、個に応じた学びをより一層工夫する。
・定時制の職員の心身がより健康で、職員間のコミュニケーションがより良好な職場環境づくりを推進し、職員が過度なストレスを感じることのない職場の実現を目指す。

学校関係者評価　　実施日：令和８年２月１２日

・定時制の教育は生徒に心を注いでいると感じた。
・同窓会役員としては今年度同様にもっと同窓生の力を活用し、定時制の生徒に生かしてもらいたい。
・複雑な問題を抱えている定時制の生徒に対して、教員が工夫を凝らして丁寧な支援を行っていることがよく伝わってきた。
・定時制だから救われる生徒がいるのが現状であり、定時制の存続を期待している。
・学校運営協議会では開催時間の関係で、全日制の授業参観のみで、定時制の授業を参観する機会がない。できれば、学校運営協議会委員として定時制の授業も参観したいと考えており、定時制の学校行事にも参加したいと考えている。